

桐蔭コンプライアンス・リサーチ教育センター 主催
第4回 公開シンポジウム

ワンランク上の危機管理
“事例に学ぶクライシスマネジメント対策”

～東芝・神戸製鋼・日産・東レ・三菱マテリアル グループなどの具体的事例を検証しながら～

日付 2018年3月14日(水)

場所 桐蔭法科大学院「東京キャンパス」

あいさつ

大澤恒夫 氏(元日本IBM法務担当、桐蔭法科大学院教授、弁護士)

大澤 それでは、定刻になりましたので始めさせていただきたいと思います。まだ少しお見えになる方がいらっしゃると思いますが、よろしくお願ひいたします。私は、今日司会を務めさせていただく大澤と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。(拍手)

今回は100名を超える皆さんからお申し込みをいただきまして、その関係で座席が指定席みたいになってしまいまして本当に申し訳ございません。ご不便をお掛けする皆さんもいらっしゃるかもしれませんが、ご理解をよろしくお願ひいたします。お忙しい中、多数ご参集いただきまして、本当にありがとうございます。感謝申し上げます。

本日のテーマは「ワンランク上の危機管理“事例に学ぶクライシスマネジメント対策”」ということで、昨年秋から今年春にかけて、さまざまな分野で不祥事が生じまして、その中で今日は品質問題等が中心になるとは思いますが、ちょうど直近のところでこの企業不祥事がかすんでしまうくらいの大不祥事が霞ヶ関あたりで生じてしまっております。それは別として、本日のこのテーマは、いわば真冬の凍てつくようなテーマかなとは思いますが、今日ご参集の皆さまは、日々企業の最前線等において、真夏のような熱いパッションでもって危機管理とかコンプライアンスに取り組んでおられる皆さんだというふうに思います。

とはいえ、夏に行く前に今春が来つつありますので、今日はパワーポイントに季節を感じさせる写真を少し載せました。私は毎日、早朝に散歩しているのですが、私がスマートフォンで撮った写真をこれから順次少しお見せします。くだらないことを言ってすみません。

今日はこういうプログラムで走らせていただきます。まずは、例によって、久保利英明先生、久保利英明先生は皆さんにご紹介するまでもございませんので、ご紹介は控えさせていただきますが、「頻発するトップも知らない不祥事ー取締役会の機能不全と内部統制の

欠陥一」ということをご講演をいただきます。それについてパネルディスカッションに入りますが、個々のパネリストで本日お願いをしております熊田彰英先生、それから菅谷貴子先生に順次ご報告をいただきまして、それでディスカッションをします。今日ご参集のフロアの皆さんからのご質問やコメントをいただきながら進めさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、久保利先生、お願いいたします。